

## ライブラリ編者のことば

データサイエンスは、急速な進展を遂げる情報技術とともに私たちの身の回りにあるデータをこれまで以上に利活用し、より良い社会を形づくっていくための学問として、多くの分野でその貢献が期待されています。

その理論的基盤を形づくる統計学は、あらゆる分野で必要とされる普遍的に重要な知識や分析手法を提供する学問として位置づけられてきました。しかし今日では統計学を応用する分野は、多岐にわたっています。応用の分野には分野固有の明らかにすべき、また解決すべき主題や問題があり、それらに取り組むには入り口で学んだ統計学の知識だけでは必ずしも十分ではありません。応用分野においては、その分野で積み重ねられてきた知見と統計学が融合した形で発展してきた分析手法により、分野固有の分析を行っていくことになります。

社会科学では、経済学の分野における計量経済学がその代表と言えます。しかしその計量経済学自体も、さらに多様な分野に細分化しているのが実情です。マクロ経済データを分析する場合、企業データを分析する場合、データを分析するという点では同じであっても、統計モデルによって何を明らかにしようとするのか、構築するモデル、モデルの評価など、異なっているものが多くあります。

この「ライブラリ データ分析への招待」は、データ分析をどのような分野でも対応できる統一的な形で学ぶのではなく、応用分野に合わせた形でデータ分析を学ぶ機会が必要であるという立場から企画されています。したがって、本ライブラリは、基礎的な統計学の知識をもっている読者に向けて、社会科学における多様な応用分野を念頭におき、それぞれの分野において、どのような分析が可能であるか、応用例を紐解きながら紹介し、そのような分析手法を身につけ、分析を実践できるようになることを目標としています。

データ分析は実践することこそ、その意義が見出せます。しかし、社会科学や人文科学の応用分野では、関心のある分析対象に切り込んでいくことは必ずしも容易なことではありません。分析者には、適切にデータ分析を実践する力が必要とされます。本ライブラリの各巻は、それぞれの応用分野で実際にデータ分析を行っている研究者の方々に執筆をお願いしたものです。興味を抱いている応用分野に即した巻をぜひ手に取って、対処すべき課題や明らかにしたい現象に果敢に挑戦してください。このライブラリが皆さんの問題の解決への一助となれば幸いです。

大屋 幸輔